

M. O. 社会システム学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

中学生のときに行ったオーストラリア研修がきっかけで海外の文化に興味を持ちました。大学に入ってから費用の面から諦めようと思っていましたが、1 年生の春に大学のニューイングランド研修に参加して、アメリカの多様性に驚きました。ここで留学しないままこの先後悔したくないと思い、2 年生になってから留学について真剣に考え始めるようになりました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

協定留学に出願するためにまずは IELTS に向けて対策を始めました IELTS 対策講座、海外留学準備セミナー、TOEFL Camp に参加しました。CASE クラスではなかったので英語に触れる機会が少なかったのですが、授業外でできる限りのことをしました。家では YouTube や映画を見て英語に慣れるようにしていました。留学が決まってからになります、留学基礎英語講座にも参加しました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

出発が 5 月だったので、授業がない期間はほとんどアルバイトをしていました。語学学校、ビザの手続きはすべて自分でやったので妥協してしまった部分もあり後悔しています。語学学校はネットで探して申し込みました。自分の中で条件(私の場合は西海岸、大学付属、ホームステイ)を決めて SDSU の ALI を見つけました。ビザは語学学校から I-20 が届いてから申請しました。こちらは思っていたよりもスムーズに終わりました。予防接種はかかりつけの病院がなかったので、ネットで見つけた梅田のクリニックに行きました。予防接種は 1 2 月中旬～4 月までかかりました。

④ 現地到着後

語学学校期間はホームステイだったのでホストファミリーが空港まで迎えに来てくれました。MBU でも、近くの空港まで担当の人が迎えに来てくれました。私は New York から Amtrak で MBU まで行ったのですが、メールで頼んだら Amtrak の駅まで迎えに来てくれました。語学学校、MBU どちらも最初はオリエンテーションがありました。語学学校ではテストもあったので留学前にある程度勉強していくことをお勧めします。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

語学学校である ALI は SDSU という大学内にあるので大学のジム、図書館がすべて無料で

使えました。パソコンなども自由に使えます。ジムは広くてサウナもあったので最低週 2 で通っていました。図書館は 24 時間開いています。大学の学生証をもらえるのでそれでトrolley とバスの定期を割引で買うこともできました。また Wi-Fi ですが、アメリカの大学には基本的に学内に Wi-Fi があるので困ることは少なかったです。

◆ 授業内容、課題、試験

ALI の大学準備コースを選んだのですが誰でも受けることができるレベルだったので同女で受けていた英語のクラスと同じくらい簡単な授業でした。上のクラスに行くためには 1 学期終了してからだったのでもずっと同じクラスのままでした。課題も少ないですし、試験も簡単でした。大学付属の語学学校にこだわりすぎてしまったと後悔しました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

寮から図書館が 2 分くらいでとても便利でした。基本的に 0 時まで開いているので課題に追われていたときは助かりました。ジムは寮から遠くて SDSU と比べると狭かったです。キャンパスの外にはお店が並んでいるダウンタウンがあります。スーパーマーケットは FOOD LION まで歩くか、友達の車かバスがあるときはウォルマートに行きました。

◆ 履修科目

・ INT130 Introduction to American Culture

必修のクラスです。アメリカの歴史やスタントンの町について学びました。留学生しかいなかったの自分的にホッとする授業でした。フィールドワークも多くてとても楽しかったです。

・ ENG103 English as a Second Language

必修の英語クラスです。先生によるとありますが、あまり好きな授業ではありませんでした。

・ AS106 Asian Civilization

アジアの歴史について学びました。授業内容はとてもおもしろかったです。ライティングが多いクラスだったのでほぼ毎週エッセイの課題があり大変でしたが、とてもいい経験になりました。ただ、授業は先生がしゃべるのが中心でノートを取るのが大変でした。総合的に先生の教え方はわかりづらいですが、とても優しい人なので課題がわからなければ助けてくれます。

・ SOC225 Sex Roles and Male-Female Relationships

自分の専門分野であるジェンダー系の授業です。日本で学ぶジェンダーとは基本的には同じですが、違う視点からジェンダーについて考えることができておもしろかったです。テストはオンラインなので緊張せず受けることができました。テストはすべて論述問題でした。

何回かエッセイも書きました。

◆ 授業、レポート、定期試験

授業は日本と比べると短くて、週に 2、3 回あるのが新鮮でした。日本と比べると課題がとても多いので最初は大変でした。レポートも今まで英語で書いたことがなかったのですが、ライティングセンターに行ってアドバイスをもらいながら書いていました。最初はできないと思っていましたがいつのまにか慣れていたので不安になる必要はないと思います。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

MBU の留学生はみんな COSMOS というクラブに入っていました。交流イベントでは日本料理を作りました。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

◆語学研修期間

ホームステイ先は ALI の方からメールで大体の情報が送られてきます。家が学校から 1 時間程度でバスの本数も少なかったのですので家に帰らないといけないなど不便でした。最初は遠くても大丈夫と思っていましたが、その部分がストレスになることもありました。食事は朝夜つきでしたが、ホストファミリーがベジタリアンだったことと、ホストファザーしかいなかったの料理はいつも適当なものでした。お昼ご飯は自分で作ったり、スーパーで買ったりしていました。また家には家族以外に 3 人の留学生がいました。ベジタリアンであること、他にも留学生がいることは行くまで知らされていなかったの初めに聞いておいたほうがよさそうです。もし私のような場合で、ホームステイ先を変えられるのであれば他の家に変えてもらったほうがいいと思います。私は期間が短かったので我慢しました。

◆正規科目履修期間

留学生はみんな PEG の 4 階に部屋がありました。ルームメイトは同じく留学生の韓国人の子でした。4 階には留学生と RA の生徒しかいなかったのすごく楽しかったです。食事は 3 食ついてきますが、食堂の料理はヘビーなものが多く途中で飽きます。留学生はみんなラーメンを食べていることが多かったです。カフェのカスタマイズできるサンドイッチ(チキンサラダ、アボカド、テラロールの組み合わせがおすすめ)やサラダは美味しいです。みんなで集まって誰かの部屋で映画を見たり、リビングルームで他愛もない会話をしたりした時間がとても楽しかったです。

⑨ 長期休暇の過ごし方

語学学校から MBU まで、1 週間の休みがあったので NY に行きました。Fall Break は寮に滞在できますが、韓国人の子たちと NY に行きました。Thanksgiving Break は寮が閉まるので、友達の家とフレンドシップファミリーの家に泊らせてもらいました。MBU での

授業が終わってからは、Asheville にプチ旅行をしました。MBU を出てからはワシントン D.C.と NY で 1 人旅をしました。そのあとはホノルルで同女の留学生と合流して日本に帰りました。航空券、ホテルの予約は直前にネットで探して取りました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

6 月から就活サイトがオープンしてからたまに企業を見たりしていました。自己 PR などと考え始めたのは 11 月くらいだったと思います。ボスカリには参加していません。夏のインターンシップに参加できなかったのは残念ですが、1、2 月にもあるので焦ることはありませんでした。留学前は就職活動に出遅れると感じて不安でしたが、留学するうちに自分が将来やりたいことへの自信がついたので留学してよかったと心から思います。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中に誕生日を迎えたのですが、他の留学生がグダグダのサプライズパーティをしてくれたのがとても嬉しかったです。アメリカでは 21 歳はとても重要な年でたくさんの人に祝ってもらえて嬉しかったです。サンディエゴ、スタントンで出会った友達は一生の宝物です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

語学学校を選ぶときに、日本人が少ないという点に固執して結果的に中国人ばかりのコースを選んでしまったのですが、中国人同士で中国語だけ話していてその状況がつかないです。韓国人の友達と旅行したときもストレスを感じることもあり、日本では当たり前のことが当たり前ではない文化や国民性にショックを受けることもありました。英語の話し癖は国、人それぞれに違って最初は理解することが難しかったですし、ペラペラ英語を話す友達に劣等感を感じることもありましたが、その英語が正解であるというわけではないということに気づいてからは自信をもって英語を話せるようになりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

アメリカは車社会なのですが免許がなかったのが辛かったですが、思っていたより車を持っている友達はいたのでとても困るというわけではなかったです。公共交通機関は日本と比べるとややこしく、時間通りに来ることがほぼありません。また、お店などでの接客では冷たい接客が多いので悲しくなりました。英語に自信がなかったころはうまく注文することができずに悔やんだこともありましたが、日本のようなホスピタリティはあまり感じられませんが、知らない人であってもフレンドリーに接してくれる人が多いです。知らない人にその服いいね！など声をかけられることはしばしばありました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

MBU は良くも悪くも田舎です。遊べる場所はほとんどないので暇な時間が多いです。何もすることがないので勉強に集中できます。都会の忙しさを忘れてゆっくりと過ごすことができたと思います。人が少ないからかわかりませんが、みんな優しいです。オリエンテーションでは留学生にアンバサダーという私を助けてくれる人がついてくれて、学校を案内してくれたり、履修について教えてもらったりしました。オリエンテーションが終わっても、アンバサダーや留学生担当の教授はいつでも助けてくれるので安心でした。留学生が参加できるイベントもたくさんあるので、田舎だけど十分に楽しめました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必須だと思います。持ち運ぶことが多かったので軽いものだと楽だと思います。携帯は Walmart で安いプリペイド携帯を現地で買って旅行するときなど必要な月だけ Walmart Family Mobile で契約していました。電話テキストし放題で通信データ容量は 1 GB でしたが、アメリカはいたるところに Free Wi-Fi があるので十分でした。値段は 3, 000 円くらいで他の会社と比べてもここが一番安いと思います。薬類は風邪薬、生理痛薬、酔い止め薬を持っていきました。鎮痛剤は 2 箱くらい使いました。持ち物は何を持っていくべきか悩むと思いますが、大体 1、2 週間旅行をするイメージで大丈夫だと思います。私は夏出発冬帰国だったのですが、節約のために冬服も一緒に持っていきました。シャンプーなどは現地で調達しました。日本から持って行って特に役立ったものはチャック付きポリ袋です。大きいものと小さいものをそろえておくと旅行のときに便利です。服を入れるパラグライダークロス(大 2 枚小 2 枚)も役立ちました。化粧品もアメリカに行ってからあまり使いませんでしたがある程度持っておくとパーティーのときに使えます。日本の化粧品はアメリカで買うと高すぎて買えないので必要なものは買っておくべきです。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力は上がりました。留学前がほとんどしゃべれなかったくらいだったので帰国後は日常会話レベルまで到達したかなと思います。帰国後はアルバイトで海外のお客様にスムーズに対応できるようになったのが嬉しかったです。英語を学びたいと思う気持ちはずっとあるので現在進行形で英語を何らかの形で学んでいます。留学を通して自分のやりたいことを見つけたことが大きな成果だと思いました。また人とのつながりの大切さも改めて留学で学べたと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は金銭面や就活関係などで留学を諦めようとしていました。このような理由で諦めてしまう人も多いと思います。しかし、お金がないという理由で留学を止めたら後悔しませんか？私は留学していなかったら後悔していたと思います。就活が遅れるのは嫌だから留学を諦めようと思っていませんか？帰国してから周りの子を見て焦るかもしれませんが、留学を経た経験は何事にも代えがたいもので大きな武器です。留学をして得るものは人それぞれだと思います。不安になることも留学してからは留学してよかったと思える喜びに変わっていると思うので今悩んでいる人は迷わず挑戦してみてください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

就職活動をしています。周りと比較すると遅れているし準備不足かもしれませんが、自分は自分らしく進みたいと思います。諦めずにがんばれば、自分が目指すものに必ず到達できると信じています。

V. 写真



サンディエゴで一番仲良くしていたベトナム人の友達とナイトマーケットにて。ベトナムと日本の違いをたくさん学びました。



Cats の幕間にオールドデュトロノミーと。ミュージカルが大好きなので NY には 3 回行きました。日本に帰ってから劇団四季版を初めて見ましたが、違いがたくさんあって驚きました。



カレッジリングを大切な人からもらう伝統的なイベント、Junior Dad にて。私はアンバサダーにお花を渡してもらいました。フォーマルドレスをスリフトショップにみんなで探しに行ったのも楽しかった！



Junior Dad のあとに 21 歳以上の留学生でバーに。誕生日を迎えたばかりで、21 歳になるまで入れなかったのがとても嬉しかったです！お店の人がドーナツをサービスしてくれてスタントンは本当に優しい人が多かったです。

A. N. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は幼いころから英語を習得したいという思いが強く、大学での 1 年間の留学は大学入学前から決めていました。大学を決めるときも、大学から留学を支援してもらえるような学校を基準に考えていました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

留学の選考のひとつの基準として IELTS のスコアが必要だったので得意だったリスニングやスピーキングを強化することに努めました。AES クラスに入ったり、TOEFL キャンプにも参加したりしていました。苦手だったライティングも AES コースで練習し、大学に入ってから留学をつかみ取るために英語力全体の底上げを図りました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

私はエージェントを通さずに準備を進めましたが、特に大きな問題もなく申し込みなどはできました。ただ、私は気を抜いてしまうと準備がいつもギリギリなので早めにビザの申請を考えておくことが大事だと感じました。

④ 現地到着後

私は大手の語学学校を選んだので、新入生に対して平等に淡々と手続きを進められたのが印象的でした。到着空港からホームステイ先までのピックアップは語学学校の申し込み時にオプションで付けました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

私が選んだ ELS シアトル校は日本人学生が多く、最初のほうは日本語を話さないで過ごすとなると友達ができなかった記憶があります。ただ、1 セッションが 1 か月単位なので友達のサイクルがとても速かったです。

◆ 授業内容、課題、試験

授業はアカデミック準備コースだったので 1 日 6 時間ほど毎日授業があり、月末には次のレベルに上がれるかのテストがあり、思っていたよりも勉強漬けの毎日でした。その分土日は友達とマリナーズの試合を見に行ったり、観光名所をまわったりと、リフレッシュしながら大学進学を目指す多国籍な友達と一緒に勉強できたことはいい思い出です。

シアトルの夏は気候も過ごしやすく治安もよいので、コーヒー好きの私はよく放課後の勉強場所探しを兼ねてカフェ巡りをしていました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

MBU は留学生に対してとても手厚く、受け入れの人数も他の大学に比べ少ないので一目見て留学生だとわかってもらえみんな優しく話しかけてくれました。留学生専用の寮もあったので、ルームメイトと揉めることもありませんでした。

◆ 履修科目

授業は必須の 2 つの授業に加え、舞台での発声方法や発音を矯正する授業 (Oral Reading)、Horseback Riding、芸術の観点から音楽の歴史をたどる授業 (Intro for Listening to Music)、あとはヨガのクラスを取っていました。

・ Oral Reading

Oral Reading は先生が現役のシェイクスピアを専攻している大学院生の方だったので、舞台の観点からもセリフの練習をするのが楽しかったです。テストは特になく、毎週プレゼンテーションがありました。

・ Horseback Riding

Horseback Riding は珍しい授業だったので履修しましたが 5 回の授業で extra fee (200 ドル) かかったのと、担当してくれた乗馬の先生が牧場の経営者だったのですが、営業目的のように感じたので少し残念でした。馬はかわいく、いい経験になりました。この授業もテストは特になく、忘れたところに学期末のレポートを提出しましたが、道具の使い方を記入するなど簡単なものでした。

・ Intro Listening to Music

Intro Listening to Music は、急遽履修した授業ですが一番楽しく先生もとても良い先生でした。内容も簡単で、芸術的観点から見る音楽なので個人的にはとても楽しめました。テストは 2 回あって、勉強しないと点が取れないので何度も音楽を聴き返して勉強しました。Extra credit で学校や町で行われるリサイタルに行き、レポートを 3 回ほど提出しました。

・ ヨガ

ヨガは思っていたよりも保健体育的な授業で専門用語を覚えるのに苦労しました。最終のレポートも普段の授業中の専門用語や体の動かし方などに注意していないとわからないことが多く大変でしたが、先生がフォローしてくださり無事に満点をもらえました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

MBU では、演劇専攻に興味があったのでオーディションに突然参加したり見学させてもらったり、道具の建設を手伝ったりと積極的に参加してみました。そこでできた友達にテニスクラブを紹介してもらって、週 1 回コーチに教えてもらいながらみんなでテニスをしたの

が友達作りに役立ちました。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

MBU の寮生活では上記の通り何の不自由もなかったのですが、語学学校でのホームステイは少し合わないところがあり苦勞しました。大きな犬が 3 匹いたので匂いに悩まされたり、食事も口に合うものではありませんでした。休日もどこかに連れて行ってもらえることもなかったので、コミュニケーションが希薄でした。

⑨ 長期休暇の過ごし方

MBU での長期休暇は留学生のみんなでニューヨークに旅行に行ったり、友達の家泊まったりしていました。アメリカの文化を体験するために、フレンドシップファミリーの家を訪れていた子もいました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

私はボストンキャリアフォーラムに参加し、面接や企業の説明会に参加しました。しかし出発前に証明写真を準備し忘れ、寮の写真好きの友達にリクルート用の撮影をしてもらい大変役に立ったことを覚えています。私の年の就活開始が 3 月だったので、帰国後でも遅れることなく就活に参加できています。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

多国籍の友達がたくさんできたことです。英語があればたくさんの人とコミュニケーションが取れるのでたくさんの刺激を受けました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

食べ物です。食が本当に合わず、日本食以外で満腹になった覚えがありません(笑)。あまり日本食を持って行かなかったのですが、たくさん持って行って損はないです。特に MBU は簡単に日本食スーパーに行ける環境ではないので本当に苦勞しました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

ホストファミリーが作ってくれるご飯のバリエーションが少ないことです。夜ご飯を丁寧に何品も作る文化がないため、ふかしたジャガイモだけの日もあり驚きました。

あとは、黙っているだけではアジア人の 1 人としてしか見られないことです。自分の個性を出してアプローチすることが大切だと感じました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

スタントンは小さい町で、人とのつながりが温かいところです。裏を返せば本当に何もなく、車がなければ町からは出られません。ただキャンパス内は平和で安全でとても素敵な時間を過ごせたなと思っています。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

クレジットカード会社別々で2枚、ラップトップ、多めに下着類、チャック付ポリ袋

③ 語学力の上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

自分の中でかなり成長したと感じています。価値観の違いを認めることで他人を尊重できるようになりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学を迷っているなら絶対にしてほしいし、挑戦してみたいと思ったことが自分の将来につながると思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

様々な文化を受け入れることのできる、グローバルへ理解を示していけるような人材になり、社会に貢献したいと考えています。

V. 写真



これは語学学校での写真です。全員無事にレベルアップできてうれしかった瞬間です。

ELS シアトル校は韓国や中国以外にもアラブ系のアジア人や、スパニッシュを話す子が多くいました。



これは韓国の友達とワシントン D.C.に出かけた時の写真です。土日にショートトリップをしていました。



これは日本に帰国する前にロサンゼルスに寄って、ディズニーランドに行った時の写真です。12月なのに暑くて半袖です(笑)。